

# 9月議会報告第5回「福祉・教育の後退が阿寒・音別地区で」

平成19年度決算審議を進める中でビックリしたことがあります。

それは、合併後の阿寒・音別地区の福祉・教育が後退していることです。

## 一つが国保料の連続値上げです。

阿寒地区国保料	平成18年度	平成19年度	平成20年度
所得68万円	85,100円	90,700円	98,600円
所得131万円	153,000円	169,600円	192,300円
音別地区国保料	平成18年度	平成19年度	平成20年度
所得68万円	90,300円	94,700円	100,700円
所得131万円	168,100円	180,500円	198,000円



## ふたつ目には、特定疾患患者通院等助成金制度の縮小です。

合併前は、音別地区では、医療費も助成対象でしたが、これからは通院費だけの助成になります。また、阿寒地区では、合併後は登録人数が88人から39人に、激減しています。釧路地区には「無い」制度ですが、良い制度は継続すべきでしょう。

## 三つ目には、阿寒地区の図書館利用数の減少です。

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
利用者数	12,137人	11,682人	10,365人
貸し出し数	30,310冊	28,267冊	34,986冊

利用者数の減少は、釧路地区の運用に合わせて、図書館バスが2キロ圏内にある幼稚園、小学校、中学校を巡回しなくなり、約1,000人の利用者が減ったと言うのです。「効率化」と言っても、機械的な対応ではないでしょうか？

今回の決算において、市町村合併のマイナス面を明らかにしました。

私は、その地区にあわせた行政サービスを展開すべきと考えます。みなさんは、いかが考えますか？



# うめつ通信

第347号  
通算641号

2008年10月26日 発行：日本共産党釧路市議会議員  
うめつ則行（釧路市愛国西3-30-18） 090-9082-4916